



(参考仮訳)

プレスリリース No.15/03

即時解禁

2015年1月14日

国際通貨基金 (IMF)

米国・ワシントン DC

篠原尚之 IMF 副専務理事、任期満了に伴い退任へ

国際通貨基金 (IMF) の篠原尚之副専務理事は、クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事に、任期満了に伴い IMF を去り日本へ帰国する意思を伝えた。同氏は2月28日付けで退任する。

2010年3月、世界金融危機のさなかに就任した篠原氏は、新規借入取極 (NAB) の拡大や二者間の借入取極を通し、IMF の資金基盤を 5,000 億ドル以上拡充するという取り組みに貢献した。こうした措置により、IMF は危機の際加盟国を支援するために十分な資金を保持しているという安心感を金融市場に与えることができた。

また篠原氏は、IMF の融資制度の広範な改革の責任者としても手腕を発揮し、緊急支援の対象範囲の拡大、流動性注入の強化、及び IMF の貧困削減・成長トラストの資金面での自立の確保に努めた。さらに、IMF のクォータ (出資割当額) 及びガバナンス改革の推進にも尽力した。

ラガルド氏は「篠原氏は、その優れた能力と鋭い洞察力をもって、IMF の危機対応に尽力し、そして総合的に我々のグローバルな加盟国との関係強化に貢献した。我々すべてから退任が惜しまれる存在である」と述べ、篠原氏の IMF、スタッフ、及び加盟国への揺るぎないコミットメントに謝意を述べた。

また、ラガルド専務理事は篠原氏について「なかでも、アジア、アフリカ及び中東地域の加盟国との関係強化に貢献した」と述べた。「篠原氏は、日本と IMF の有意義な関係の維持と更なる強化で重要な役割を果たしてきた。地域レベルでは、東南アジア諸国連合、東南アジア諸国中央銀行グループ、及びアジア太平洋経済協力フォーラムと積極的に交流し、IMF との共通課題への取り組みを進展させた。また同氏の尽力により、多くの比較的小規模な加盟国と IMF の関係が大幅に改善された。」以上に加え、篠原氏は、IMF の情報技術、経済関連のデータ管理、事務管理業務、建築・建造物、空間管理、及び IMF 職員の安全面の責任者としても活躍した。

IMFは、篠原氏の後任選出に早急に取り掛かる予定である。